



# International GAP(国際的適正農業規範)対応の食料管理専門職業人の養成 —国際標準適正農業規範(GAP)対応教育モデルプログラムの開発とそれに基づく食料管理者育成実践教育の展開—

## 背景

- 地球規模での競争と協調・共生が求められる時代への対応の遅れ
- BSEや新型インフルエンザなどの発生、食品への農業混入や表示偽装事件の多発
- ・世界的な食の安全性の問題
- ・国内の食料自給率の低下
- ・担い手不足
- ・環境負荷の増加

## 国際的な対策の必要性

- 欧州から始まったGLOBALGAPの広がり
- 消費者・環境重視の食料政策が始まる
- 異分野業種の参入・国際流通の活発化

## 新たな世界標準

- 食品の安全性確保の観点から、(1)農産物の安全 (2)環境への配慮 (3)生産者の安全と福祉 (4)農場経営と販売管理に関する規範の世界標準化(GLOBALG.A.P.)

## 遅れている日本の対応

## 課題

- 青果物のみを対象に、GLOBALG.A.P.に対応したJGAP2.1が公開されたのは2007年
- 日本での国際標準化への遅れ
- 大学でのGAP専門プログラムはない
- すべての食品を網羅したGAPシステムがない

## 本事業の目的

全国6位の農業生産額を誇る宮崎県を地位的基盤とし、新たな農学教育組織を構築した農学部を結集し、国際標準の適正農業規範(GAP)の教育モデルを開発する。また、農業団体との連携協力によるGAP実践教育を展開し、食の安全管理専門職業人を養成する。

## 実施内容

### I. 実践型教育プログラムの開発

- ①GAPに対応した人材育成カリキュラムの開発。
- ②JGAP指導員講座(資格認定)／GAP概論の設定
- ③GAPに対応した農林業法人でのインターンシップ
- ④先端技術者や行政担当者による実践セミナーの開催
- ⑤社会人のためのGAP教育プログラムの構築
- ⑥GAPを啓蒙普及する食農教育プログラムの構築

### II. 教育の質の保証

- ①ポートフォリオの導入
- ②教育分野、産業区分を超えたFD／SD活動の充実
- ③テレビ会議システム等を利用した効率的な教育
- ④相互授業参観の実施

農産物および環境の安全・安心に関して肌で触れることを含めた総合的学習プログラムの構築



## 期待される効果

- GAPに対応した総合的な学習体系の整備
- 宮崎大学の特色ある教育プログラムの国内外への発信
- 農業法人のコーディネーターの育成
- 国際標準のGAP策定に貢献
- 特徴ある就職支援
- GAPの取り組みへの支援

